

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 4月 日

事業所名 放課後等デイサービスプレミアムやよい坂

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		特性により、場を区切るなど、動線も工夫している。	適切である。ご利用者様の特性や下校時間によって場を区切るなど、動線も工夫している。もっと対応スピードをあげたい。
	2	職員の配置数は適切である	○		配置基準より多く配置している	適切である。多く配置している。今後も維持する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	ご家庭での段差などでも怪我しないように練習材料としている	できていない。施設内はほとんどバリアフリー。自宅や外に出れば様々な段差などがあるため、少しでも訓練になるようにご利用者様に説明や対応方法などを教えるツールとして活用している。日々のミーティングを行い、話し合い、改善につなげている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		スタッフ間の連絡ノートなども活用している。	ご利用者様のこととなると話が止まらないので、もう少し要点をまとめて話せるようにそれぞれのスタッフが気を付けて時間配分したい
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		日々の送迎で保護者様とお話しする機会をとても大切にしている	評価表を活用している。保護者様の声をいつもの送迎でたくさんお話しするのは違つかたちで頂ける。それを活かしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		少しでも多くの方に知って頂けるように新聞、送迎を活用している	ホームページで公開されています。そのことを毎月発行のプレミアム新聞にも載せて保護者様にお知らせしている。継続していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		その結果をスタッフ間で共有し、業務改善をおこなっている。	毎月内部でのチェック、3か月に一度外部チェックを実施している。長期休暇の時期は朝からの支援のため、もっと時間をスマートに使えるように考える。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		誰でも研修に行けるように開催の情報はスタッフに周知されている。	内部研修は年間スケジュールに基づき行われている。外部研修を増やしていきたい。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		日々の送迎での保護者様とお子様のことについての話を密にしている	分析し、作成している。アセスメントを見たうえで、より詳しい事は保護者様に聞き、ミーティング等で話し合いをし、計画を作成している。保護者様のニーズを日頃の申し送りでも聞いて取り入れている。継続して行う。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		保護者様が作ってくださったアセスメントツールも共有している	使用している。スタッフは、いつでも誰でも見れるように保管している。保護者様からもっと情報を得られるようにする、難しい場合はスタッフが知れたことを少しでも足す。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		色々提案が飛び交うのが良いところ。維持することが大事。	ミーティングなどで話し合い、より良いプログラムを作れるようにしている。また、その意図や目的についてもしっかり理解できるように何度もレクチャーし、スタッフのスキル向上を図っている。継続して行
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		同じ活動でも個別にできることなどを考え、常に工夫している。	一年間のスケジュールを考え、目標に向けてのプログラムを作成している。季節の活動がマンネリ化しないようにしたい
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		スタッフ間での共有ができるように連絡ノートを活用している	細やかに設定して支援できている。集団活動だけでなく、子どもに合った課題を準備し、スモールステップで出来ることを少しずつ増やしている。それを維持すること
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		それぞれのお子様の変化を皆で伝えて知らないスタッフがいないようにしている	状況に応じて話し合いをし、ミーティングなども活かし、計画を立てて実践している。状況によっては個別でしか対応できない場合も発生するが、少しでも集団に入れるように何か手はないかを皆でいつも考えている。もっと案を見つめたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		土日祝などの休日の予定や段取りは前もって打ち合わせて当日にご利用者様が困らないようにしている	午前中のミーティングで一日の流れや前日の振り返りをし、役割分担など確認している。ミーティング時間が足りない、皆お子様の様子や成長の話がたくさん上がり止まらない。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		個別に活動の様子ノートを使っている	支援終了後は大変遅いので打ち合わせはしないが、緊急時には管理者に報告し、内容をスタッフ全員で共有している、それ以外は翌日に必ず振り返りを行っている。継続して行う
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		ミーティングも活用している	一人一人支援記録を記入し、ミーティングなどで意見交換を行い、日々改善につなげている。記録をとるスタッフが偏らないように意見を収集したい。
	18	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		日々の関わり方のスタッフの情報も大事にしている	付いている。保護者様との話だけでなく、日々のミーティングでご利用者様の状況や状態などの話がたくさん上がる中で、変更や見直しが必要かという事も一緒に考えている。継続して行う
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		長年のスタッフが多くの、以前好評だったものなどの意見を大事にしている	行っている。一つの活動の中にも複数の要素を盛り込んでいる。季節感をもっと大事にしたい。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		会議の場所としても提供し参加している	児童発達支援管理責任者もしくは管理者が出席している。ご利用様の見せる様々な顔（状態）をよく知る者、という判断が大きい。継続していく。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		下校時にパニックになった場合など、教室への迎えや送迎車の対応など行っている。	適切に行われている。学校が開催する、ネットワーク会議や毎月のスケジュール、日々のお子様の状態など情報共有に努めている。継続して行う。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	この自己評価の会議の際に、医療ケア児ということへの意識へと活用している	医療的ケアが必要な子が今はない。医療的ケアが必要な子を受け入れる時には体制を整える。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		保護者様が作ってくださったアセスメントツールも共有している	努めている。契約前のアセスメントや相談支援員を通しての利用前の情報共有、担当者会議など。しかし、それを行う相談支援が少ないため難しいが、続けていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		移行後も何かあれば相談の連絡を受けている	行っている。保護者様に申し送りをする旨を伝えて、了承を頂き、移行先に特性や今までの支援内容など伝えている。今後も継続して行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	研修の知らせなどはスタッフが見れるように印刷して置くなどしている	現在、研修は参加していないが以前は研修に参加していた。今後も機会があれば参加したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	子ども達が外活動へ少しずつ慣らしができるように、集団の中で歩く・座るといった動作ができるように練習中。	公園や小さい施設へ行くなどの外での一般の方との関わりはあるが、児童クラブなどの交流は行なってはいない。公共の場では他害や自傷のある子への配慮や理解はあまりない。それを含めて安全確保が課題
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している		○	メールや研修お知らせなどに協議会という名が入っていないかをチェックしている	毎年、ネットワーク会議などに参加している。協議会が積極的に発信しているということを調べないと分からない事も多い。参加できる時に参加したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		いつでも思ったことや取り組んでほしい事、ケアの注意点など管理者携帯電話に連絡頂いている	送迎の際に、詳しいその日の様子をお伝えしたり、その中の課題やトライしたいことなどを様々話して保護者様と密に話をしている。話す時間もあまり長くなりすぎて次の送迎の子が困るようになる
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		話しやすさと信用、信頼を第一としている	送迎時やその都度の悩みや困りごとを管理者携帯電話などを通じて話し、助言やサポートを行っている。今後も継続して行う。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		テキストを知らない、使ったことがない方もわかりやすく、意識してお伝えしている	契約時に詳しく説明を行っている。また、日々の送迎時などにご質問等あればその都度お話ししている。今後も継続して行う。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要であれば当事業所以外の様々な事業所などもお伝えしている	◎同様、送迎時やその都度の悩みや困りごとを管理者携帯電話などを通じて話し、助言やサポートを行っている。今後も継続して行う。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		たくさんの方に来ていただけるようにご案内に力を入れている	今までコロナの為、出来ていなかったが、昨年より保護者会を開催している。様々など質問にお答えする質疑応答の時間も設けたため保護者様の意見もたくさん聞けて良かった。継続していきたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		保護者様のご様子やお言葉はすぐにスタッフから管理者に届く	苦情窓口を設けていますが、保護者様は皆様送迎時に伺ったスタッフや管理者等に苦情に至る前に相談をして下さるので、その都度解決し苦情に至ることがほとんどない。想いを大事に継続していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		基本的に手渡し。読んでいただけるようにお話ししながら渡している。	毎月発行している「プレミアム新聞」があります。事業所での様子や伝達事項以外にも、流行り病などの注意喚起、対応方法なども発信している。継続して行う。
	35	個人情報に十分注意している	○		シユレクターに入れてくものは専用のはさみで処理する	十分気を付けている。必ず処分はシユレクターで、個人情報の詰まったファイルなどは部屋に鍵をつけて必ず出入りある時は鍵をかける。送迎時は個人情報が見えない様に、注意して保護者様とお話するなど配慮している。継続して行う。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		反応のあった単語や動きなど、やり取りに直結することは積極的に伝えていく	配慮をしている。日々の送迎などでやり取りでの変化やつまみやり取りができた事例などを共有し、少しでも意思疎通がスムーズにできるようにしている。継続して行う。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	活動は継続して行っている	以前はバザーなどを行い周囲にもお知らせしていたが、現在はご利用の方の中には免疫が極端に弱い方もいるため不特定多数の来客を受け入れることが難しい。少しずつトライしたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		ただの紙切れにならないよう、訓練前にはスタッフで読み合わせなど行い大事にしている	様々なマニュアルがあり、それぞれ研修時にスタッフと確認している。避難訓練などは特によくマニュアルを読んでスタッフ皆で取り組んでいる。保護者様にもそれを知って頂けるように伝達する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		ご利用者様と一緒に 行い、療育としても活用している	行っている。火災や地震の避難訓練だけでなく、不審者や水害などもご利用者様と一緒に、反省点などを振り返りも行っている。今後も継続して行う。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修だけに頼らず、まず仕事とプライベート両方で のストレスを把握と緩和に	年間スケジュールに基づき研修を行い、定期的に虐待防止委員会の委員による会議もある。今後も継続して行う
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○	原則として拘束はしない。委員会活動としての スタッフへの周知、研修 の中でも話が行われていた	身体拘束虐待防止委員による研修、保護者様には契約時にお話しをしている。やむを得ない拘束ということがどのような決定で行われるか、プレミアムでは原則として拘束しないということもお話ししている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	そのような場合には対応 できるように、保護者様 たちにもお伝えしている	現在はアレルギーを持っている方がいないため医師の指示書などはありませんが、今後そのような場合には医師の指示書に基づき行う。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		スタッフの感じたヒヤリハッ トが上げやすいように、否 定することなく大事にして	現在ヒヤリハットを記録に残して、スタッフで話し合った結果も載せている。今後も継続して行う。